

病院事業会計決算状況（令和4年度～令和6年度）

（ア）【収益的収支】（税抜）

（千円）

項目	年度	2022年度 R4	2023年度 R5	2024年度 R6	
収益的収入	(1) 医業収益	3,737,493	3,985,184	4,146,222	
	ア 入院収益	2,379,151	2,527,691	2,712,469	
	イ 外来収益	1,043,799	1,149,214	1,122,710	
	ウ その他医業収益	314,543	308,279	311,043	
	他会計負担金	95,521	93,417	94,156	
	(2) 医業外収益	477,558	462,373	452,000	
	ア 他会計負担金	199,389	196,851	186,972	
	イ 長期前受金戻入	159,224	154,072	157,199	
	ウ 資本費繰入収益	55,636	81,167	82,038	
	(3) 附帯事業収益	439	10,775	15,634	
	附帯事業収益	439	10,775	15,634	
	(4) 特別利益	1,813,196	122,053	210	
	特別利益	1,813,196	122,053	210	
	総収益 (A)	6,028,686	4,580,385	4,614,066	
	収益的支出	(1) 医業費用	4,769,858	4,969,536	5,058,847
		ア 給与費	2,869,727	2,881,377	2,942,050
イ 材料費		700,884	830,918	827,431	
ウ 経費		856,443	880,449	922,553	
エ 減価償却費		316,947	366,681	355,386	
オ 資産減耗費		19,113	4,733	5,475	
カ 研究研修費		6,744	5,377	5,952	
(2) 医業外費用		270,739	249,425	251,167	
ア 支払利息		61,260	56,637	51,051	
イ 長期前払消費税額償却		21,038	21,038	21,038	
ウ 雑損失		188,441	171,750	179,078	
(3) 附帯事業費用		6,133	22,522	23,909	
附帯事業費用		6,133	22,522	23,909	
(4) 特別損失		31,224	0	0	
特別損失		31,224	0	0	
総費用 (B)		5,077,954	5,241,483	5,333,923	
当年度純損益 (A) - (B)	950,732	▲ 661,098	▲ 719,857		
前年度未処分利益剰余金	132,768	283,500	▲ 377,598		
未処分利益剰余金	283,500	▲ 377,598	▲ 1,097,455		

（イ）【資本的収支】（税込）

（千円）

項目	年度	2022年度 R4	2023年度 R5	2024年度 R6
資本的収入	(1) 企業債	421,700	57,600	121,400
	(2) 他会計出資金	0	0	250,000
	(3) 他会計負担金	191,236	199,268	188,684
	(4) 国庫補助金	0	0	198
	(5) 寄附金等	0	0	0
資本的収入 合計 (C)		612,936	256,868	560,457
資本的支出	(1) 建設改良費	439,620	86,899	130,829
	ア 施設費	26,015	0	52,476
	工事費	26,015	0	44,468
	委託料	0	0	8,008
	イ 資産購入費	413,458	86,154	77,636
	医療機器購入費	413,458	86,154	77,636
	ウ リース資産購入費	147	744	717
	リース資産購入費	147	744	717
	(2) 企業債償還金	392,746	449,250	456,541
	ア 企業債償還金	392,746	449,250	456,541
資本的支出 合計 (D)		832,366	536,149	587,370
資本的収支不足額 (C) - (D)		▲ 219,430	▲ 279,281	▲ 26,913

資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度損益勘定留保資金、当年度損益勘定留保資金及び減債積立金で補填した。

（ウ）【他会計繰入金】

項目	年度	2022年度 R4	2023年度 R5	2024年度 R6
収益的収支分（税抜）		350,546	371,435	363,164
うち基準内繰入金		350,546	371,435	363,164
うち基準外繰入金		0	0	0
資本的収支分（税込）		191,236	199,268	438,684
うち基準内繰入金		191,236	199,268	188,684
うち基準外繰入金		0	0	250,000
繰入金合計		541,782	570,703	801,848

令和6年度柏原市市立柏原病院事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

令和6年度は、総務省のガイドラインに基づき令和5年度末に策定した『市立柏原病院経営強化プラン(令和6年度～令和9年度)』に基づき運営を行った。

診療実績としては、延入院患者数54,279人、延外来患者数93,440人となり、入院患者数は5,771人(対前年比11.9%)、外来患者数は2,852人(対前年比3.1%)の増加となった。令和6年度は一定の感染症対策を講じた上で、新型コロナウイルス感染症患者用に確保していた専用病床を廃止し、年間を通して通常の病床運営を進めた。このため、延入院患者数は増加し、入院収益は前年度と比較し約1億8,500万円増加したものの、外来収益は高額薬剤の使用件数が減少したことなどの影響により、前年度と比較し約2,700万円の減少となった。その他医業収益は、人間ドック件数の増加等により前年度と比較し約300万円の増加となった。これらの結果、医業収益全体では約1億6,100万円の増加、医業外収益は新型コロナウイルス感染症関連補助金の皆減等により約1,000万円の減少となった。

一方、医業費用について前年度と比較すると、材料費は診療材料費の減少等により約300万円、減価償却費は保有固定資産の減価償却の進行により約1,100万円減少したものの、給与費は人事院勧告に伴う給与改定等により約6,100万円、経費は光熱費や修繕費の増加等により約4,200万円増加したことから医業費用全体では約8,900万円の増加となった。

以上の結果、当年度の経常損失は7億2,006万8,364円を計上し、当年度純損失は7億1,985万7,368円となった。

資本的収支については、建設改良事業の施設整備においては無停電電源装置の更新工事等を行い、医療機器等整備事業においては経年劣化が進んでいる医療機器の更新を中心に整備を行った。また、計画に基づき一般会計から2億5,000万円の出資を受けた。

令和5年度柏原市市立柏原病院事業報告書

1. 概況

(1) 総括事項

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが令和5年5月8日から5類へ移行したことにより、入院については、新型コロナウイルス感染症患者用に確保していた病床を縮小し、休止していた地域包括ケア病棟(44床)を段階的に再開した。外来においても、発熱外来での事前予約制から通常の診療時間内での対応へと移行した。また今後の病院運営について、総務省のガイドラインに基づき、『市立柏原病院経営強化プラン(令和6年度～令和9年度)』を策定した。

診療実績としては、延入院患者数48,508人、延外来患者数90,588人となり、入院患者数は8,058人(対前年比19.9%)の増加、外来患者数は141人(対前年比▲0.2%)の減少となった。新型コロナウイルス感染症患者用に確保していた病床を縮小し、休止していた地域包括ケア病棟を段階的に再開したことにより、延入院患者数は増加し、入院収益は前年度と比較し約1億4,900万円の増収となった。外来収益は延外来患者数が減少したものの、取り扱う医薬品の影響もあり、診療単価が上昇したことで、前年度と比較し約1億500万円の増収となった。その他医業収益は、公衆衛生活動収益の減少等により前年度と比較し約600万円の減収となったが、医業収益全体では約2億4,800万円の増収となった。医業外収益は、資本費繰入収益が増加したものの、新型コロナウイルス感染症関連補助金の減少等により約1,500万円の減収となった。

一方、医業費用について前年度と比較すると、給与費は退職給付費や会計年度任用職員報酬の増加等により約1,200万円の増加、材料費は取り扱う医薬品の影響や患者数の増加により約1億3,000万円の増加、経費は修繕費の増加等により約2,400万円の増加、前年度の電子カルテシステム更新の影響により資産減耗費は約1,400万円の減少、減価償却費は約5,000万円の増加となった。医業外費用は雑損失の減少等により約2,100万円減少となった。また訪問看護ステーション(令和5年1月事業設置)の通年運営に伴い、附帯事業収益は約1,000万円、附帯事業費用は約1,600万円の増加となり、以上の内容から経常損失は7億8,315万1,040円を計上し、特別利益において、新型コロナウイルス感染症の入院受入病床の確保に係る補助金1億2,205万3,000円の交付を受けたものの、当年度の純損失は6億6,109万8,040円となった。

建設改良事業では、医療機器等整備事業において、経年劣化が進んでいる医療機器の更新を中心に整備を行った。

令和4年度柏原市市立柏原病院事業報告書

1. 概況

(1) 総括事項

令和4年度は、前年度に引続き入院・外来ともに新型コロナウイルス感染症への対応に注力する一年となった。入院については、令和3年2月に看護体制を確保するために受入病棟とは別に閉鎖した1病棟(44床)を引続き通年で閉鎖し、最大で27床の受入病床を確保して新型コロナウイルス感染症患者の受入を行った。外来においても当院発熱外来受診者数はさらに増加したため、ピーク時には一部救急の受入を休止するなどして、敷地内に設置したプレハブにて発熱外来対応に当たった。また、地域の医療ニーズに対応するため令和5年1月に訪問看護ステーションを設置した。

診療実績としては、延入院患者数40,450人、延外来患者数90,729人となり、入院患者数は3,751人(対前年比▲8.5%)の減少、外来患者数は358人(対前年比▲0.4%)の減少となった。入院患者数減少の要因としては、新型コロナウイルス感染症患者数が減少したこと、また発熱外来のために救急の受入を休止したことによる一般入院患者の減少が挙げられ、入院収益は前年度と比較し約1億400万円の減収となった。一方、外来患者数減少の主な要因は、診療体制の縮小による皮膚科の患者数減少の影響が大きいものの、発熱外来患者数や眼科の外来手術件数の増加により外来収益は前年度と比較し約2,800万円の増収となった。また、室料差額収益の減少等によりその他医業収益は前年度と比較し約400万円の減収となった。この結果、医業収益全体では約8,000万円の減収、医業外収益は新型コロナウイルス感染症関連補助金の減少により約1,400万円の減収となった。

一方、医業費用について前年度と比較すると、給与費は退職給付費や会計年度任用職員報酬の増加等により約7,900万円の増加、材料費は新型コロナウイルス感染症治療薬の自院調達や高額な化学療法薬の適応疾患拡大等により約2,800万円の増加、経費は光熱費の高騰により約2,400万円の増加となった。また、医業外費用は控除対象外消費税の増加により約2,900万円増加し、以上の内容から、経常損失は8億3,123万9,312円を計上し、前年度よりも約2億8,000万円悪化したものの、特別利益において、新型コロナウイルス感染症の入院受入病床の確保に係る補助金18億1,319万6,000円の交付を受け、当年度の純利益は9億5,073万2,688円となった。

また建設改良事業では、施設整備においては空調設備更新工事の他、一般会計繰入金を財源とし、新型コロナウイルス感染症対策として無線LANネットワーク構築工事を行い、医療機器等整備事業においては電子カルテシステムや経年劣化が進んでいる医療機器の更新を行った。

市立柏原病院 年次経営指標

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
病床稼働率	50.4%	60.2%	67.6%
平均在院日数(一般のみ)	12.0日	13.1日	14.9日
入院患者数	40,450人	48,508人	54,279人
新入院患者数	3,295人	3,624人	3,870人
入院収入単価	58,817円	52,109円	49,973円
外来患者数	90,729人	90,588人	93,440人
初診患者数	14,478人	14,211人	13,170人
外来収入単価	11,505円	12,686円	12,015円
救急搬送件数	1,595件	1,871件	1,784件
時間外患者数	4,833人	5,980人	5,650人
紹介率	50.9%	56.6%	69.3%
逆紹介率	52.6%	53.1%	62.8%
手術件数	1,158件	1,152件	1,306件
分娩件数	216件	203件	190件